

学校と連携した心のバリアフリーの推進のための バリアフリー教室開催の手引き等の作成

令和6年3月13日(水)
神奈川県茅ヶ崎市 都市部都市政策課



本日のながれ

- 1 茅ヶ崎市の紹介
- 2 茅ヶ崎市バリアフリー基本構想
- 3 「令和 5 年度 心のバリアフリー推進のためのモデル検討調査」の対象
- 4 茅ヶ崎市における心のバリアフリー教室について ★
- 5 プログラム検討と教室の開催状況
- 6 最後に

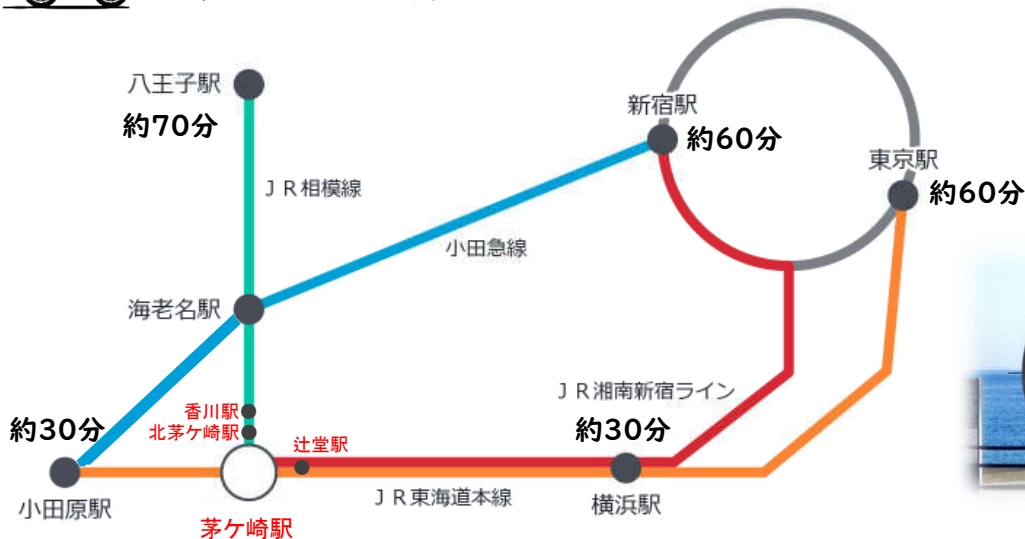


1 茅ヶ崎市の紹介

面積	35.76km ² (約6km四方)
人口	245,469人 (令和6年3月1日現在)
世帯	107,501世帯 (令和6年3月1日現在)



北:里山 南:海 中央:商業エリア
・自然環境と都市機能バランスよく配置
・平坦な地形が特徴



2 茅ヶ崎市バリアフリー基本構想

バリアフリー法

高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律
(平成18年12月施行)

法25条 移動等円滑化基本構想

茅ヶ崎市バリアフリー 基本構想

平成27年9月策定

- ・重点整備地区
(茅ヶ崎駅・北茅ヶ崎駅周辺)
- ・整備促進地区(市独自)
(香川駅周辺、辻堂駅周辺)
- ・マスタープランの要素を含む
(市全域での方針など)

令和5年8月改定

- ・バリアフリー法の一部改正や前計画期間の課題等を反映
- ・市が率先して全市的なバリアフリー化のボトムアップを図る

法26条 協議会

茅ヶ崎市バリアフリー 基本構想推進協議会

平成28年10月に設立

- ・30名で構成
 - 特定事業の事業者
 - 高齢者、障がい者団体等
 - 学識経験者
 - 公募の市民等

部会を設立

茅ヶ崎市バリアフリー 基本構想推進協議会 市民部会

心のバリアフリーの推進が目的

- ・17名で構成
 - 高齢者、障がい者団体等
 - 学識経験者、公募の市民等

市民部会の取組

教育
啓発

心のバリアフリー教室
(小学校4年生対象)



本日の説明

普及
啓発

市報やポスター等の掲示
(市民対象)

- ・当事者参加による
継続的な取組



- ・様々な啓発ツールの活用



※教育啓発特定事業の実施に関する
ガイドライン(令和4年3月、国交省)で紹介

3 「令和5年度 心のバリアフリー推進のためのモデル検討調査」の対象

国土交通省 → 株式会社サンビーム



令和5年度
心のバリアフリー推進のためのモデル検討調査



茅ヶ崎市

心のバリアフリー教室開催の手引き書作成

開催校の拡大に伴い必要となる部分に支援していただき、新たに動画等を作成。また、動画等は汎用性のあるものとし、横展開できるようにする。

①教室紹介動画の作成

→本教室のDXを推進。小学校に配付する案内チラシに紹介動画のリンクを貼り、教室内容の見える化、教室運営に係る効率性の向上、広く周知を図る。

②教育動画「ステップ！知る」の作成

→「ステップ！知る（市職員教室）」の一部を動画に置き換え、質の確保及び標準化を図る

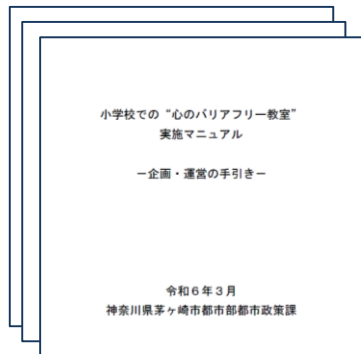
③バリアフリー基本構想概要版（わかりやすい版）のイラスト等作成

→現在のプログラムはソフト面の内容が中心となっている。今後、概要版（わかりやすい版）を活用し、ハード面の取組の紹介などをプログラム内容に取り入れ、理解を深める

3 「令和5年度心のバリアフリー推進のためのモデル検討調査」の対象

成果物

①心のバリアフリー教室開催の手引き書



②教室紹介動画の作成



③教育動画「ステップ！知る」の作成



④概要版(わかりやすい版)イラスト等作成



※後日、茅ヶ崎市のホームページで公表します

4 茅ヶ崎市における心のバリアフリー教室について

皆さんに質問です。

新年度からバリアフリー施策の担当に就任です。エレベータやバリアフリースイレなどの適正利用を促すことが求められています。どちらのポスターを掲示しますか。



ポスター1



ポスター2

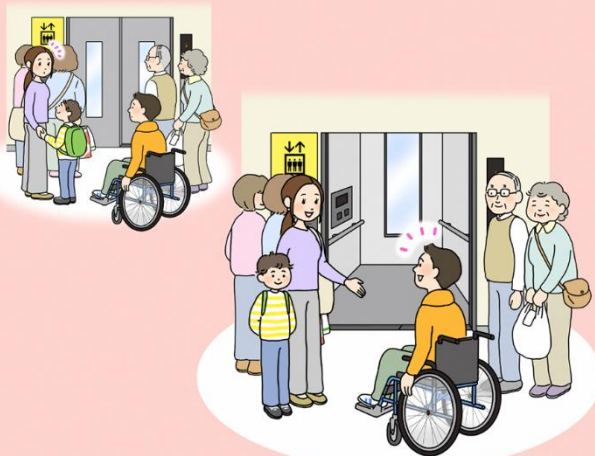
4 茅ヶ崎市における心のバリアフリー教室について

取組当初は“ポスター1”を選んでいました。
現在は“ポスター2”を選びます。

他者理解

①障がいのありなしに関わらない

ありがとう! 車いすを利用している私から…
エレベータを先にゆずっていただいて



こここのバリアフリー市民部会
茅ヶ崎市バリアフリー基本構想推進協議会市民部会

ポスター1

ポイント!

ここにある、このころ。

やさしさの巡る街、茅ヶ崎



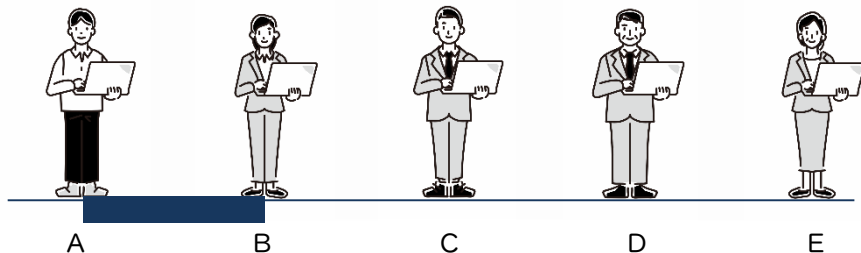
茅ヶ崎市バリアフリー基本構想推進協議会市民部会
イラスト：1.0056 Drawing

ポスター2

4 茅ヶ崎市における心のバリアフリー教室について

2つ目の質問です。新年度の新たな担当メンバーです。6か月間、一緒に過ごすことでメンバーの関係性はどのようになりますか。また、それぞれのメンバーのどんなことがわかりますか。

(4月)



(10月)

4 茅ヶ崎市における心のバリアフリー教室について

2つ目の質問です。新年度の新たな担当メンバーです。
6か月間、一緒に過ごすことでメンバーの関係性はどのようになりますか。
また、それぞれのメンバーのどんなことがわかりますか。

(4月)



A B C D E

(10月)

ポイント3



A B C D E

ポイント1

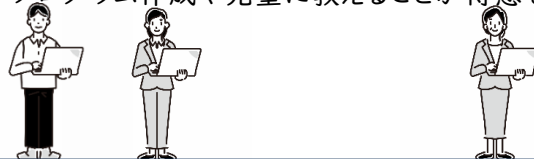
ポイント2

・児童との交流が得意な人



A B C D E

・プログラム作成や児童に教えることが得意な人



A B C D E

段階的・連続性、
対話、自主性・楽しさ

- ① 会う回数が増えることで
→ お互いの距離感が近づく
→ お互いの気づきを発見
- ② 話す機会が増えることで
→ 相互理解の促進
→ それぞれの得意なこと、不得意なことなどがわかる
- ③ 楽しさ、自主性を促すにより
理解の促進を図る
→ 少人数での対話や体験

4 茅ヶ崎市における心のバリアフリー教室について

皆さんに質問です。

まちづくりの視点から心のバリアフリーについて、児童にどのように説明しますか。

わたしたちのまち



まちなか



心のバリアフリー

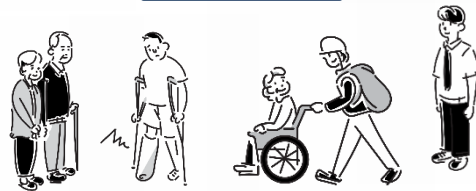
心のバリアフリー

心のバリアフリーとは、バリアを感じている人の身になって考え、行動を起こすことです。

市の役割

安心

バリアフリー基本構想の理念「だれもが安心して過ごせるまちづくりを目指す」



バリアフリー

「バリア」とは、英語で障壁(かべ)という意味。バリアフリーとは、生活の中で不便を感じるこ、様々な活動しようとするときに障壁になっているバリアをなくす(フリーにする)ことです。

4 茅ヶ崎市における心のバリアフリー教室について

茅ヶ崎市ではこのように考え、児童に教えています。

わたしたちのまち

まちなか

→わたしたちのまち

多様な人

→たくさんの方がいて、
人により得手不得手
があり、同じ人はいない



安心

みんなが安心して過ごせる



まちづくりから
の視点

→見る方向は、
まち⇒困り事(人)
困り事(人)⇒まち

わたしたちのまちには、さまざまな人が暮らし、人それぞれ得意なこと・不得意なことが違います。まちなかや学校での人の困り事を皆の力でなくして安心なまちになるよう、皆ができることは何かを学びましょう。

わたしたちのまち



困り事を減らしていく

心のバリアフリー

心のバリアフリー

心のバリアフリーとは、バリアを感じている人の身になって考え、行動を起こすことです。→他者理解

バリアフリー

「バリア」とは、英語で障壁(かべ)という意味。バリアフリーとは、生活の中で不便を感じることを、様々な活動をしようとするときに障壁になっているバリアをなくす(フリーにする)ことです。→困りごと

4 茅ヶ崎市における心のバリアフリー教室について

わたしたちのまちには、さまざまな人が暮らし、人それぞれ得意なこと・不得意なことが違います。まちなかや学校での困り事を皆の力でなくして安心なまちになるよう、皆ができることは何かを学びましょう。

段階的・連続的な学習プログラム、少人数での交流

対話中心

主体性・楽しさ

まちづくり

■全体の目的

体の不自由な方たちとの「対話」や「体験」を通して、児童たちが「相手の視点に気づく」きっかけをつくることで、学校や街中で相手の気持ちを考えた「思いやりのある行動」ができることを目指します。

■ステップごとの目的

授業全体を4つのステップに分け、ステップごとの目的を達成することで全体の目的達成へとつなげます。

ステップ1

「知る」

茅ヶ崎市には様々な人がいて、人それぞれ困ってしまう場面が違うことを知る

市の職員教室

単 位:90分/クラス
役 割:市が司会進行
内 容:市職員との対話や児童らの体験・グループワークを通して、茅ヶ崎市には様々な人がいて、それぞれ困りごとが違うことを知る(交流教室へつなぐ)



ステップ2

「気づく」

自分と違った視点に気づき、人によって困り事やサポートの仕方が違うことを体感する

交流教室①

(視覚・聴覚・肢体不自由)

単 位:45分/クラス
役 割:司会進行(都市政策課、実務者チーム、市民部会)、障がい当事者(都市政策課、庁内公募職員、市民部会)
内 容:自分の障がいや毎日の生活、街に出かけて困ってしまうこと等を障がい当事者から話し、人により困り事が違うことに気づく



ステップ3

「分かる・できる」

相手の気持ちを考えた行動を行うことができる

交流教室②

(視覚・聴覚・肢体不自由)

単 位:45分/クラス
役 割:交流教室①と同じ
内 容:障がい特性を踏まえた上で児童が考えた障がい当事者と一緒にお遊びやゲームを班ごとに実施。一緒に楽しむことでお互いの理解促進。



ステップ4

「深める」

外見から分かりづらい障がいや学校での出来事と重ね合わせ、自分事として理解を深め、多様な価値観を学ぶ

市民部会教室

(知的障がい・自閉症)

単 位:45分/クラス
役 割:市民部会が司会進行
内 容:知的障がい・自閉症など共通する特性を学校での出来事と重ね合わせ、自分事化できるように体験等を変え、理解を深める



4 茅ヶ崎市における心のバリアフリー教室について

ステップ1:知る

茅ヶ崎市には様々な人がいて、人それぞれ困ってしまう場面が違うことを知る



①市職員による説明(講義形式)

- ・茅ヶ崎市には様々な人が住んでいる
- ・困ってしまう場面も人それぞれ
- ・困っている人がいたらどうする?
(ケーススタディ)



②歩行体験(体験形式)

- ・目をつむり目的地まで歩く
- 1回目は1人で歩く
- 2回目は2人一組で歩く。
- その際、お互い声を掛け合いながら行う



③グループワーク(実習形式)

- ・困り事がありそうなA~Cさんと一緒にお家から公園まで行く場合、道中にどんな困り事があるかを考える。その困りごとを解消するための声掛けやお手伝いの方法を考える
- ・個人ワーク、班内発表、全体発表

ステップ2:気づく

自分と違った視点に気づき、人によって困り事やサポートが違うことを体感する



①障がい者との交流(対話形式)

- ・障がい者からの話、教室内外での体験を通じて、その人のことについて知る。
- ・適宜、児童からの質問
- ・2回目の交流に向けた準備



(鶴嶺小のみ)

②公共交通の利用(対話形式)

- ・屋外(学校敷地内)にバスを配置し、児童と障がい者が一緒に乗車
- ・乗降や乗車中等の困り事を知り、その人に合ったサポート方法を体験を通して学ぶ

4 茅ヶ崎市における心のバリアフリー教室について

ステップ3:分かる・できる

相手の気持ちを考えた行動を行うことができる



①障がい者との交流 (対話形式)

- ・児童と一緒にの班になった障がい者の特性を理解し、一緒に楽しむ遊ぶ

ステップ4:深める

外見から分かりづらい障がいを理解し、多様な価値観を学ぶ



①茅ヶ崎いんくる隊による 説明(講義・体験形式)

- ・自閉症や知的障がいなど外見からわかりづらい障がいについて、共通する特性をテーマとして設定し、その内容が学校での出来事を想起し、自分化する

児童の成果

- ・学校毎にまとめを実施
- ・児童から市への手紙



- ①大切だと思ったことは、障がいがあってもなくても困っていたら助けてあげるといことだと思ひます。理由は、障がいがあってもなくても困っていることは、たくさんあるからです。
- ②人を思ひやる心、その人のためにいろいろな工夫をすることなどが必要だと思ひました。思ひやる心は最初の授業の時に学び、その人のためにいろいろな工夫をすることはブラックボックスを作ったときに学びました。
- ③私は、「心のバリアフリーに」には思ひやりの心が必要だと思ひます。なぜかという、思ひやりの心がなかったら、助け合ひもないし、今回だつて、障がい当事者と一緒に遊ぶ物を考えることもできなかつたかもしれない。だから、私は、思ひやりの心が必要だと思ひます。
- ④見た目で判断せず、相手の内側もちゃんと見る。困っている人がいたら助ける。思ひやる。障害を持っている人以外でも相手を思ひやる心が大事。困っている人が「いたら、「魔法の言葉」をかける。世の中にはいろいろな人がいるからいろいろな工夫や思ひやりが必要。
- ⑤みんながみんな自分と同じわけじゃないから、人に何かするとき、一度、立ち止まって、これは相手にとっていやじゃないか、何を今してほしいのかを考える、いろいろな体験をして、今、人にとっては、こう見える、こう感じる、ということを知つて思ひやりが大切だと思つた。
- ⑥目が不自由な人は、点字ブロックだけを頼りにして大変そう。この街にもいろいろな障がい者がいるけど、みんなが人を支えて生きているから、障がい者も安心して生きていけると思ふ。自分も障がい者や困っている人がいたら、優しく声をかけて助けてあげたい。自分がもし困つても優しい人たちがいるから安心して生活ができると思ふ。自分一人で助けられなくても、みんながみんなを想つて人を助けたり、時には助けられたりいろいろなことを知つたし、いろいろなことをこの2時間で学んだ。もし困っている人がいたら魔法の言葉「お手伝いできることはありますか」と聞いて助けてあげる。

5 プログラム検討と教室の開催状況

プログラム検討

現場の先生と プログラム作成

開催状況

令和元年度

- ・小学校側からの障がいのある方との交流
→心のバリアフリー教室のプログラムを
担当教員、市民部会と調整し、試行的
に実施

- ・1校 鶴嶺小学校 4年生(一部のクラス)で実施

令和2年度

- ・「ステップ1知る」のプログラムの見直し
- ・コロナ禍であり交流教室は中止。既存教科に
着目し、視覚障がい者の日常生活、移動、仕事
等がわかる動画を作成し、実施

- ・1校 鶴嶺小学校 4年生(一部のクラス)で実施

令和3年度

- ・「ステップ1知る」～「ステップ3分かる・できる」
のプログラムを再開し、プログラム全体の流れ等を
確認

- ・1校 鶴嶺小学校 4年生(一部のクラス)で実施

・学年で実施
・プログラムの追加

令和4年度

- ・「ステップ1知る」～「ステップ3分かる・できる」
→前年度のふりかえりを踏まえ実施
- ・知的障がいや自閉症に関するプログラム作成・実施

- ・1校 鶴嶺小学校 4年生(学年全体)で実施
→特別支援級がない学校

・開催校の拡大

令和5年度

- ・「ステップ1知る」～「ステップ3分かる・できる」
→前年度のふりかえりを踏まえ実施
- ・知的障がいや自閉症に関するプログラム作成・実施
- ・関東運輸局との連携による教室開催(バスを使用)

- ・校長会での周知
- ・5校 鶴嶺小、室田小、松林小、松浪小、汐見台小で実施
→特別支援級設置校での開催

6 最後に

本教室は、教室運営者、参加する小学校、協力者、全ての方々が心のバリアフリーを学びきっかけとなります。ぜひ、一緒にやりませんか。



ご清聴ありがとうございました。

